

平成29年度英語科海外ホームステイ研修報告 8月1日（火）

いよいよ今日はホスト校 Livingstone Christian College（LCC）で過ごす最終日となりました。有終の美を飾るのに相応しく、雲一つない青空が広がり、日中は汗ばむ程気温が上昇しました。生徒たちはすっかりオーストラリアでの生活に慣れ、ホストファミリーの送迎のもと、今日も元気に登校してきました。

最後の英語クラスは Joshua 先生と Peta 先生のクラス合同で行いました。今日もまたウォーミングアップとして、発音矯正からスタートしました。リズムに合わせ、様々な単語を口の動きに注意しながら練習していきます。先生方より「一週間前より、ずっと“r”と“l”、“th”の発音が綺麗になった。」とたくさん褒めて頂き、生徒たちは照れながらも嬉しそうな表情を浮かべていました。この発音矯正は正しい発音を身につけるだけでなく、生徒の緊張を解き、実際に口に出すことで、シャイな生徒たちが発言するきっかけとなったと感じました。その後はLCCの生徒との交流に向けての準備とお世話になったファミリーやバディーへのサンキューカードの作成を行いました。特にカードの作成では、相手がもらって喜ぶ物を考え、日本から持って来た和紙に感謝の気持ちを記すなどの工夫をしている姿が印象的でした。



英語のレッスン後は、バディーと一緒にクラスに参加し、その後、楽しみにしていたLCC生徒との交流の時間がやってきました。当初、LCC生徒との触れ合いはプログラムに含まれていませんでしたが、LCCの計らいで急遽実施することができました。2グループに分かれて、小学生の教室を訪れ、折り紙を教えました。英語で教えるというのは初めての経験のため、最初は当惑していた郡高生たちですが、すぐに慣れ、鶴や花、兎、飛行機など色とりどりの作品が机に広がりました。現地生徒の可愛い笑顔につられ、郡高生の表情も和らぎ、優しく教えている光景を微笑ましく感じました。



今日のランチは、野外でバディーと共にピザパーティーをしました。大きなピザとジュースがテーブルの上に並べられ、LCCでの最後の昼食を楽しみました。初めのうちは、せっかくのバディーとの最後の時間であるのに、日本人同士またはバディー同士で固まってしまっている時間が多かったものの、時間が経過するとともに、一緒に写真を撮ったり、持って来たお土産を渡したりと、少しずつ2つの輪が1つにまとまっていきました。言語、文化、見た目全てが違いますが、海外の同世代の生徒たちと交流は、苦勞したぶん、郡高生たちにとって、かけがえのないものになったに違いありません。



そしていよいよこの研修の集大成であるプレゼンテーションの時間です。LCCのスタッフやバディーが続々と会場に集まってきました。代表生徒が浴衣と甚平を着て司会進行を担当し、会場を盛り上げます。合唱部による校歌に拍手喝采が起り、その後、空手の型のデモンストレーション、震災・福島の魅力・日本文化についてのプレゼンテーション、そして最後は全員での「花は咲く」の大合唱。会場からは割れんばかりの拍手が沸き起こりました。プレゼンテーションでの生徒たちの堂々とした立ち振る舞いに、この研修での大きな成長を感じました。





その後、LCCの校長先生からお礼の言葉を頂戴し、生徒一人一人に修了証書とプレゼントが渡されました。終了後、生徒はバディーと最後のひと時を過ごしました。2週間という短い期間でしたが、研修内容が濃かったためか、別れを惜しんで涙を流す生徒もいるほどでした。

2週間の研修が間もなく終了します。「早く日本に帰りたい。」とご家族の方との再会を心待ちにする生徒もいれば、「もっとオーストラリアに残りたい。帰りたくない。」と漏らす生徒も少なくありません。中には将来海外で学んでみたいという新たな目標が芽生えた生徒もいます。この研修が、生徒が将来を考えるきっかけの一つになることを願います。



日本に帰るまでが研修です。安全を第一に、最後まで学び多い研修になるようにしたいと思います。



<LCCで飼育されている羊との記念撮影>